

都内で木造5階建集合住宅

世田谷区で建設、6月頃に竣工予定

昨年、東京都内で木造5階建て集合住宅（1階はRC造）が着工し、現在3階部分の施工が行われている。3月には5階までの工事が進み上棟する見通しになった。

この集合住宅は世田谷区の準防火地域に建設されている。建築面積92・83平方メートル、延べ床面積372・15平方メートルの木造耐火構造建築になる（1階はRC造）。エレベーターシャフトをクレーンのスペースに使い、木造建築でありながらクレーンを設置して施工している。柱を建て、床を張り、柱を建てるといふ工程で、現在は3階部分の柱を建てたところ。

柱は独自に1時間耐火認定を取得した耐火被覆型の木造で、米松構造用集成材（中東）の150×180ミリ角、153×245、300ミリなどで強化石

膏ボード15ミリ×2枚張りの表面に発泡黒鉛シートで被覆する。

柱と柱の接合はBV Dハンガーシステムを採用。床には杉・米松のマッシュホルツ120ミリ厚を2層、直交させる形で使用する。天井は強化石膏ボード15ミリと21ミリの2重張り。床はセルフレベリング材を50ミリを打設し、そ

の上に乾式遮音二重床と足元に日本ゲッツナーの防振材シロマーを施工し、防音・防振対策を取る。

耐力壁は米松の柱間にOSB24ミリを真壁使用して施工し、高倍率耐力壁とする。鉛直荷重は柱と床のフラットスラブが担保し、水平力は外周部に設ける木斜格子（米松60×75ミリ）



施工中の現場。床に杉と米松の120ミリのマッシュホルツを2層、直交して使用している

が負担し、外周壁には日鉄住金のノイラックス（1時間耐火、ロックウール断熱材の充填パネル）を採用する。現在は工事用のシートで外部からは見えないうが、米松の木斜格子が屋内側で現しで使用される予定で、完成後には外部からもガラス越しに見えるようになる。

国土交通省の木のまち整備促進事業の補助事業に採択されており、設計はKUS一級建築士事務所、構造は東大生産技術研究所・腰原幹雄十桜設計集団一級建築士事務所、防火コンサルタントは桜設計集団一級建築士事務所、施工は大和ハウス工業が担当。6月ごろの竣工を予定している。